

日澱化學株式会社

2019年度環境活動レポート

(対象期間：2019年4月～2020年 3月)



作成日：2020年7月29日

□ ごあいさつ

日澱化学株式会社は、一丸となって自主的・積極的に環境保全活動に取り組みます。

2019年度の我が国経済は、消費増税までは緩やかな回復基調で推移していましたが、米中通商摩擦と、台風19号の被害が輸出や設備投資に影を落としはじめ、さらに新型コロナウイルスの感染拡大で世界的に経済活動が停滞し、景気後退期入りは免れない状況となりました。

でん粉業界では、コーンスターチの原料となるトウモロコシの主要輸出国である米国で豪雨による作付けの遅れが影響し前年度より生産量が落ちました。また、馬鈴薯澱粉の原料となるジャガイモの主要産地である欧州では40℃を越える熱波に見舞われ作柄に影響を与えており、原料となる作物の安定供給をはかる上でも、地球温暖化による異常気象を防ぐための環境保全が喫緊の課題であると認識しております。

大気から二酸化炭素を取り入れて作られる芋類や穀類のでん粉は大変環境に優しい素材ですが、植物由来の特性を生かしながら様々な用途に適応する加工澱粉を生産するためには、変性させる薬品や精製する水、乾燥する熱を使います。環境負荷の低減と共に生産コストの削減を図るために、薬品量の適正化、省エネ、節水はもとより、効率の良い生産を目指して工程の改善にも尽力しています。

近年、マイクロプラスチックの海洋汚染問題が取り上げられ、プラスチック素材から置き換えられる可能性のある分野においては需要家と共に環境に優しい製品開発を進めています。さらに、仕入れる物品についてはグリーン購入を心がけ、廃棄物を減らす努力と分別の徹底を行い環境に関わるあらゆる面に留意し、全社一丸となって成果を上げることに邁進し、加工澱粉事業を通して環境保全に貢献してまいります。

日澱化学株式会社は、これからも環境負荷低減活動と環境教育を通して、社会貢献の観点より環境保全活動に取り組んでいきます。

日 澱 化 学 株 式 会 社
代表取締役社長 北 本 俊 彦

環 境 方 針

< 環境理念 >

日澱化学株式会社は、環境保全が経営の重要課題であることを踏まえ、環境経営システムを構築・運用し、全社一丸となって自主的・積極的に環境保全活動に取り組みます。
当社の加工でんぷん製造等の事業活動における環境負荷の低減のため、行動指針を次のように定めます。

< 環境保全への行動指針 >

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 以下について具体的な環境目標を定め、実施計画を立て、継続的改善に努めます。
 - ① 低炭素社会のための省エネルギー
 - ② 循環型社会のための廃棄物の削減及び食品廃棄物再資源化の推進
 - ③ 循環型社会のための省資源、節水の推進
 - ④ 各種委員会等を通じての環境教育の実施及び啓発推進
 - ⑤ 化学物質の適正管理のもとに環境に有害な物質の使用量の削減
 - ⑥ 環境に配慮したグリーン購入の推進
 - ⑦ 環境に配慮した製品の研究開発と販売促進
3. 当社のために働くすべての社員にこの環境方針を周知し、環境活動レポートにて社外へ公表します。

制定日：2006年11月10日

改定日：2012年6月26日

代表取締役社長 北 本 俊 彦

日 澱 化 學 株 式 会 社

行 動 指 針

省 工 ネ ・ 節 水

薬 品 ・ 廃 棄 物 の 削 減

環 境 教 育 の 継 続

グ リ ー ン 購 入 の 推 進

環境に配慮した製品の開発と販売促進



全員が周知し、法規制を遵守

2006年11月10日（2012年6月26日 改訂）

代表取締役社長 北 本 俊 彦

地球温暖化防止と循環型社会の構築
～未来の子供たちのために～

□ 組織の概要

(1) 事業者名及び代表者名

日澱化学株式会社 代表取締役社長 北 本 俊 彦

(2) 所在地

本 社 大阪市淀川区三津屋北3丁目3番29号
東京営業所 東京都中央区日本橋本町3丁目2番13号
アドバンテック日本橋ビル8階

(3) 環境管理責任者・食品リサイクル責任者 氏名及び担当者連絡先

責任者	取締役工場長	笹岡一男	TEL：06-6309-1263
担当者	総 務 部	太田 寛	TEL：06-6309-1263
	生 産 部	大槻晋一	TEL：06-6309-7653

(4) 事業内容（認証・登録の範囲）

加工でんぷんの製造・販売



(5) 事業の規模

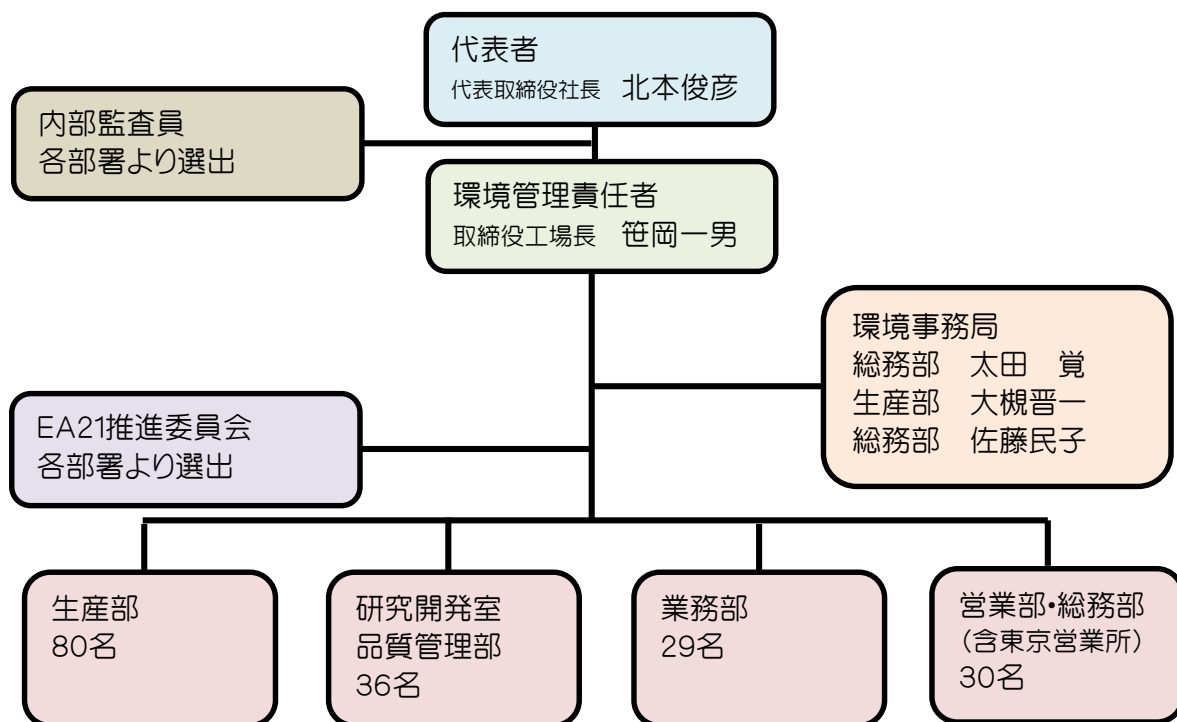
製品出荷額 54億円／年（2019.5/1～2020.4/30）※事業年度は5/1-4/30

	本 社	東京営業所
従 業 員	167	8
敷地面積	20,938㎡	164.23㎡（延べ床面積）

(6) 会社の沿革

1917年 5月	合資会社日本澱粉製造所設立。赤玉印（Red Ball Brand）の商標にて、日本で初めて加工でんぷん（焙焼デキストリン・ソルブルスターチ）の生産を開始
1942年 5月	株式会社に改組し、日本澱粉製造株式会社となる
1955年	架橋でんぷんの生産を開始
1957年	アルファ化でんぷんの生産を開始
1960年	でんぷん誘導体（エーテル化でんぷん）の生産を開始
1962年	特許取得した流動焙焼装置による焙焼デキストリンの量産化を開始
1963年	酵素デキストリンの生産を開始。捺染用変性グアーガムの生産を開始
1964年	スプレードライヤーによる酵素デキストリンの量産化を開始
1965年 6月	東京営業所開設
1967年 8月	創業50周年を契機として、日澱化学株式会社と社名変更
1974年 6月	資本金1億円に増資
1987年 8月	タイ国で合弁会社 NIC STARCH PRODUCTS LTD. 設立
2007年 9月	エコアクション21認証登録（工場、研究開発室）
2010年 4月	大阪工場内に新社屋竣工
2010年 9月	エコアクション21全社での認証取得
2017年 5月	創業100周年

□ 実施体制



代 表 者	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施及び管理に必要な人・設備・費用等を用意 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員への周知 ・代表者による全体の評価と見直しを実施
内部監査員	・内部監査の実施 ・内部監査の評価・確認・報告書の作成
環境管理責任者	・環境経営システムの構築・実施・管理 ・環境活動実施計画書・環境教育訓練計画書を承認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境レポートの確認
環境事務局	・環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境目標・環境活動実施計画書・環境教育訓練計画書原案の作成 ・環境教育訓練計画書に基づく各種環境教育の実施 ・環境活動実施計画の実績集計 ・環境レポートの作成
EA21推進委員会	・環境活動実施計画の実施・確認・評価 ・自主的環境目標の策定・実施・確認・評価
全 社 員	・環境方針を理解し、環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□ 主な環境負荷の実績

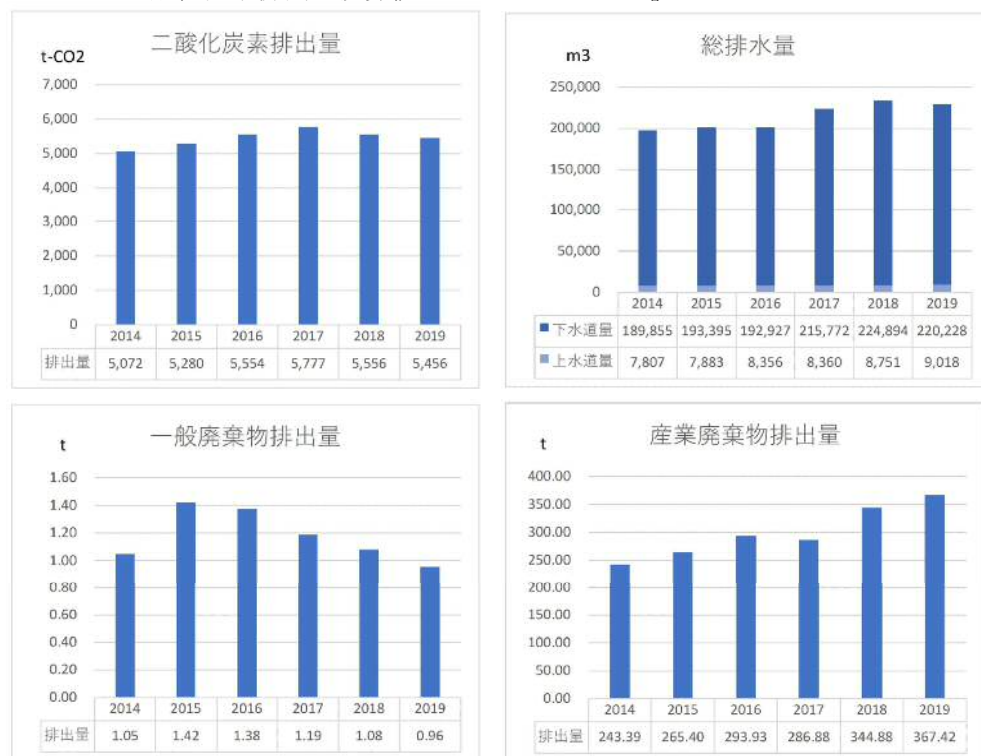
環境負荷の概要

当社の生産活動による環境負荷は都市ガスが大きな割合で、生産量、生産品目によって、大きく左右されます。
また、第1種エネルギー管理指定工場に指定されており、中長期計画を立てて、エネルギー原単位の削減に取り組んでいます。（L/tのLは原油換算量）

【本社】

項 目	単位	2016年	2017年	2018年	2019年
二酸化炭素総排出量	t-CO ₂	5,554	5,777	5,556	5,456
エネルギー原単位	L/t	217.80	207.48	201.23	206.58
上水道	m ³	8,356	8,360	8,751	9,018
工業用水	m ³	192,927	215,772	224,894	220,228
総排水量	m ³	201,283	224,132	233,645	229,246
一般廃棄物排出量	t	1.38	1.19	1.08	0.96
産業廃棄物排出量	t	293.93	286.88	344.88	367.42
生産数量 対基準年比 (2013年を100として)		102%	111%	110%	104%
食品廃棄物再資源化率		100%	100%	100%	100%
食品廃棄物発生量	t	146.36	127.40	131.66	150.40
食品廃棄物抑制量	t	80.00	98.30	98.80	80.50
食品廃棄物再生量	t	146.36	127.40	131.66	150.40
食品廃棄物廃棄量	t	0.00	0.00	0.00	0.00

※電力の二酸化炭素排出量換算値 0.000352 t-CO₂/kWh



【東京営業所】

項 目	単位	2016年	2017年	2018年	2019年
二酸化炭素総排出量	t-CO ₂	0.00706	0.00714	0.00630	0.00654
廃棄物排出量(一般)	t	0.23	0.23	0.23	0.23
総排水量	m ³	18	18	18	18

※電力の二酸化炭素排出量換算値 0.000462375 t-CO₂/kWh

□ 環境目標及びその実績

【本社】 (L/tのLは原油換算量)

年 度 項 目		基準値	2019		2020	2021
		(基準年)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
エネルギー原単位削減	L/t	222.0	219.8	206.6	217.5	215.3
	基準年比	2014年	99%	93%	98%	97%
二酸化炭素排出量削減	t	4,158	4,116	5,456	4,075	4,033
	基準年比	2017年	99%	131%	98%	97%
一般廃棄物の削減	t	1.42	1.29	1.08	1.28	1.26
	基準年比	2015年	91%	76%	90%	89%
廃プラスチックの削減	t	52.4	52.4	55.6	52.4	52.4
	基準年比	2018年	100%	106%	100%	100%
焼却灰の削減	t	2.8	2.7	2.6	2.5	2.4
	基準年比	2015年	95%	93%	90%	85%
汚泥(堆肥化)の削減	t	130.1	130.1	159.7	130.1	130.1
	基準年比	2018年	100%	123%	100%	100%
汚泥(飼料化)の削減	t	126.1	123.6	106.1	122.3	121.1
	基準年比	2018年	98%	84%	97%	96%
工業用水の削減	m ³	215,772	213,614	220,228	211,457	209,299
	基準年比	2017年	99%	102%	98%	97%
上水道の削減	m ³	8,360	8,276	9,018	8,193	8,109
	基準年比	2017年	99%	108%	98%	97%
化学物質の削減	t	259.5	256.9	213.6	254.3	251.7
	基準年比	2017年	99%	82%	98%	97%
グリーン購入率	%	47.24%	59.99%	56.91%	59.99%	59.99%
	基準年比	2013年	127%	120%	127%	127%
環境教育の推進	定例会議（3ヶ月に1回）を開催し、必要な情報の共有化と自主的目標達成を中心に、環境教育を継続しています。 また、可能な限り環境に関する講習、講演会、各種見学会に参加し、情報の収集を継続するとともに、環境に関する各種教育を推進しています。 特に、クレーム削減については、環境負荷低減に大きく貢献するとの認識の元、所属長が中心となり、クレーム削減活動を展開しております。					
環境に配慮した製品の開発と販売の促進	営業部門と研究開発部門から担当者を選出し、定期的に取り組状況をチェックしています。 「環境に配慮した製品の開発と販売の促進」は、会社の業績に直接関係する項目ですので、特に力を入れて取り組んでいます。					

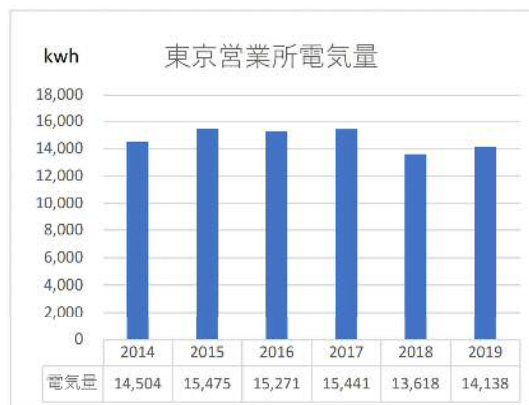
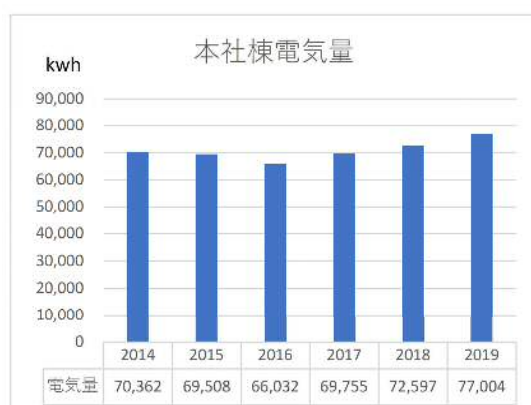
□ 環境目標及びその実績

【本社棟】（本社棟上水道は、【本社】上水道データに含まれています）

項 目 \ 年 度		基準値	2019		2020	2021
		(基準年)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
コピー用紙の削減	枚 基準年比	259,902 2016.2018年	259,902 100%	282,742 109%	259,902 100%	259,902 100%
ガス使用量の削減	m ³ 基準年比	7,576 2018年	7,576 100%	7,891 104%	7,576 100%	7,576 100%
使用電力の削減	kWh 基準年比	72,597 2018年	72,597 100%	77,004 106%	72,597 100%	72,597 100%
上水道の削減	m ³ 基準年比	448 2018年	448 100%	471 105%	448 100%	448 100%

【東京営業所】（L/m²のLは原油換算量）

項 目 \ 年 度		基準値	2019		2020	2021
		(基準年)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
エネルギー原単位削減	L/m ² 基準年比	0.02811 2009年	0.02642 94%	0.02215 79%	0.02614 93%	0.02586 92%
二酸化炭素排出量削減	t 基準年比	0.007 2017年	0.0071 100%	0.0065 92%	0.0071 100%	0.0071 100%
コピー用紙の削減	枚 基準年比	29,847 2018年	29,847 100%	31,199 105%	29,847 100%	29,847 100%
使用電力の削減	kWh 基準年比	18,556 2009年	16,700 90%	14,138 76%	16,515 89%	16,329 88%



□ 環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画		達成状況	次年度	評 価（結果と次年度の取組内容）
エネルギー原単位、二酸化炭素排出量の削減				
数値目標	原単位	◎	■ 上方修正 □ 下方修正 □ 基準見直し	目標を達成しました。 引き続き、省エネ委員会が中心となり、環境負荷低減活動に積極的に取り組んでまいります。 各課の管理職が課題を提案し負荷低減に取り組んでいます。
数値目標	二酸化炭素	◎	■ 上方修正 □ 下方修正 □ 基準見直し	
各種会議を通じての削減要請及び教育		◎	継続	
原単位目標説明		◎	継続	
省エネ委員会を通じての各種対策の実施		◎	継続	
一般廃棄物の削減				
数値目標		◎	■ 上方修正 □ 下方修正 □ 基準見直し	年間を通じて、ほぼ一般廃棄物削減が継続出来ました。昨年度に続き、分別の徹底を推進した事も大きく貢献したと思われます。 リサイクルの推奨を含むグリーン購入を推進し、一般廃棄物削減を推進していきます。
各種会議を通じての削減要請及び教育		◎	継続	
削減目標説明		◎	継続	
グリーン購入とリサイクルの推奨		◎	継続	
分別推進による古紙回収の推進		◎	継続	
産業廃棄物の削減(廃プラ)				
数値目標		△	□ 上方修正 □ 下方修正 ■ 基準見直し	新たな目標を設定して削減に取り組みましたが、昨年より増加となりました。 分別を徹底し、目標を達成できるよう努めていきます。
各種会議を通じての削減要請及び教育		◎	継続	
削減目標説明		◎	継続	
空フレコンバック再利用の推進		◎	継続	
ペットボトルリサイクルの推進		◎	継続	
分別推進の継続		◎	継続	
産業廃棄物の削減(焼却灰)				
数値目標		◎	■ 上方修正 □ 下方修正 □ 基準見直し	基準年に比べて、大幅に減少しています。 効率的な運用を推進し、更なる削減を推進していきます。
各種会議を通じての削減要請及び教育		◎	継続	
削減目標説明		◎	継続	
投入量、処分量の正確な把握		◎	継続	
分別推進の継続		◎	継続	
産業廃棄物の削減(肥料化)				
数値目標		△	□ 上方修正 ■ 下方修正 □ 現状維持	今年度も連続生産を行ったのと、飼料化分が肥料化に移行されたので、増加となりました。新たな目標を設定し、削減を推進していきます。
各種会議を通じての削減要請及び教育		◎	継続	
削減目標説明		◎	継続	
飼料化の推進継続		◎	継続	
分別推進の継続		◎	継続	
産業廃棄物の削減(飼料化)				
数値目標		○	■ 上方修正 □ 下方修正 □ 現状維持	豚コレラ等の影響により肥料化へ移行したため、減少しました。
各種会議を通じての削減要請及び教育		◎	継続	
削減目標説明		◎	継続	
飼料化の推進継続		◎	継続	
分別推進の継続		◎	継続	

□ 環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	次年度	評価（結果と次年度の取組内容）
工業用水の削減			
数値目標	△	☐ 上方修正 ☐ 下方修正 ☒ 現状維持	
各種会議を通じての削減要請及び教育	◎	継続	今年度も該当部署が長期間に渡り連続生産を行ったため、使用量が増加しました。今後も使用増加が見込まれますが、本年度の数値を目標に、引き続き適正使用を継続します。
削減目標説明	◎	継続	
節水呼びかけの継続	◎	継続	
上水道の削減			
数値目標	△	☐ 上方修正 ☐ 下方修正 ☒ 現状維持	
各種会議を通じての削減要請及び教育	◎	継続	全体を通して、使用量が増加しました。長期間に渡り、連続生産を実施した事が大きく影響していますので、現状維持を目標にし、目標達成に向け取り組んでまいります。
削減目標説明	◎	継続	
節水呼びかけの継続	◎	継続	
化学物質の使用量削減			
数値目標	◎	☐ 上方修正 ☐ 下方修正 ☒ 現状維持	
各種会議を通じての削減要請及び教育	◎	継続	現状維持を目標に取り組み、目標を達成しました。引き続き原単位によるチェックも加え適正使用に取り組んでまいります。
生産ミスによるムダな使用量の削減	◎	継続	
生産工程・処方変更による使用量削減	◎	継続	
食品廃棄物再生資源化の推進			
数値目標	◎	☐ 上方修正 ☐ 下方修正 ☒ 現状維持	
各種会議を通じての削減要請及び教育	◎	継続	今年度も100%の再資源化を達成しました。来年度も、100%の再資源化率達成を目指し取り組んでまいります。可能な限り売却する事で発生量そのものも減らしてまいります。
再資源化目標の説明	◎	継続	
分別回収の推進	◎	継続	
適正処理状況の正確な把握	◎	継続	
飼料化推進の継続	◎	継続	
グリーン購入の推進			
数値目標	△	☐ 上方修正 ☐ 下方修正 ☒ 現状維持	
業務部会議推進による情報の共有化	◎	継続	業務部門(購買)が中心となり、物品購入の前に社内代替品の検討や購買時にエコや省エネ配慮の商品を検討しています。算出方法の見直し（事務用品のみで率を算出）を実施し、購入を推進していきます。
代替品検討による購入抑制の推進	◎	継続	
有害性の少ない資材の購入推進	◎	継続	
省エネ性能の高い製品の購入の検討	◎	継続	
事務品購入規定に伴うエコ商品購入	◎	継続	
施設部門による再利用の推進	◎	継続	
環境美化の推進			
● 2004年から毎年、大阪市一斉清掃「クリーンおおさか」に参加し、地域の清掃、環境美化に協力しています。 ● 社内においては2005年から毎週月曜日（第1月曜日は除く）全域清掃を実施し、環境美化を推進しています。 ● 2019年度も同様に大阪市一斉清掃「おおさかマラソン・クリーンアップ作戦」、近隣企業と協力し社外清掃、社内全域清掃を計画的に実施し、環境美化を推進しています。			

□ 環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	次年度	評 価（結果と次年度の取組内容）
環境に配慮した製品の開発と販売促進			
開発会議の推進	◎	継続	研究開発室の開発会議、営業部門の営業会議等を通じての環境配慮の再確認と品質管理部・生産部による製造工程の見直しやクレーム削減・規格外品の削減活動継続してムダを削減する事による環境配慮を継続しています。
新規開発			
現行製品の見直し			
製造工程の見直し その他			
製造機械の見直し等業務改善推進	◎	継続	また、環境委員会等を通じての進捗状況を確認し、更なるスパイラルアップを目指してまいります。
クレーム・規格外品の削減	◎	継続	
営業会議の推進	◎	継続	
環境配慮品への切り替え推進			
現行品の見直し			
効率的な配送体制の確立			
環境委員会を通じての進捗状況の確認	◎	継続	

□ 緊急事態に対する取組

- 2019年10月、事業継続力強化計画の認定を取得



- 2019年06月、消防訓練



- 2020年03月、消防訓練



生産部

《 製造各課 》

シートシャッター設置

担当者より

シートシャッター設置…より安全に作業ができるようになりました。
充填機更新…生産効率向上に貢献しています。



土間改修 《実施前》



排水用配電盤更新



《実施後》



自動充填機更新



研 究 棟

《 研究開発室・品質管理課 》

自動ドアへ変更

担当者より
恒温恒湿室更新…省エネ効果が期待できます。
ふるい機更新…騒音が軽減しました。

《実施前》



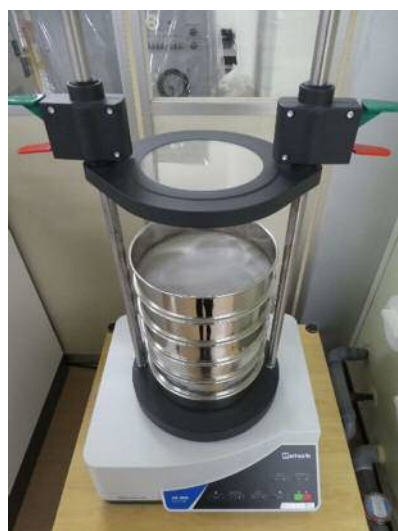
《実施後》



恒温恒湿室更新



ふるい機更新（騒音軽減）



本社棟・東京営業所

《 業務課 》

書庫の整理整頓

担当者より

書類の整理整頓…仕事の効率化につながっています。
緑化の維持・管理…雑草と格闘しながら、維持に努めています。

《 実施前 》



《 実施後 》



《 物流課 》

バッテリー車へ更新



《 総務課 》

緑化の維持・管理



□ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	ボイラー、乾燥設備
大気汚染防止法	ボイラー、乾燥設備
ダイオキシン類特別対策措置法	焼却炉
騒音・振動規制法	空気圧縮機、送風機
P R T R 法	プロピレンオキサイド他
下水道法	工場排水
労働安全衛生法	リスクアセスメント・ストレスチェック
廃棄物処理法	一般廃棄物、廃プラスチック、焼却灰、汚泥、廃蛍光灯等
消防法（危険物）	プロピレンオキサイド、メタノール
工場立地法	工場内緑化
食品リサイクル法	食品用途の澱粉残さ ※「再生率80%以上の維持」に対し、当社100%
フロン排出抑制法	業務用の冷凍空調機器
エネルギー使用の合理化等に関する法律（省エネ法）	都市ガス、電気、L P G

環境関連法規制等の遵守状況については、現在、問題はありません。
 その他につきまして、定期評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。
 過去3年間にわたって違反や訴訟もありませんでした。

2015年10月15日	当事業所を「淀川区災害時地域協力事業所」として登録 (淀川区災害対策本部にて)
2018年03月02日	「なにわエコ会議」主催の「二酸化炭素削減コンペ」において 「CO2削減大賞」を授与
2019年02月22日	「なにわエコ会議」主催の「二酸化炭素削減コンペ」において 「努力賞」を授与
2020年03月02日	「なにわエコ会議」主催の「CO2削減・プラスチックごみ削減コンペ」に おいて「感謝状」を授与

□ 代表者による全体評価と見直しの結果

2020年7月31日 代表者による全体評価と見直しを行いました。結果を以下の通り報告致します。

[環境方針]

現行方針を継続し、行動指針に基づき計画を実行し、成果を上げて下さい。

[目標・活動計画]

工業用水・上水道・本社棟水道光熱費・コピーカウントについて必要に応じた見直しを進めて下さい。コロナウイルス禍の中で、市況の変化に応じた適正在庫を図るため、効率の良い製造を心掛け、エネルギー原単位の削減・CO2排出量の低減に努めて下さい。

[環境経営システムの各要素]

環境管理事務局が主体となり、全従業員が環境管理・環境保全活動に取組み成果を出せるように引き続き推進して下さい。安全に配慮しつつ自主的目標の達成を目指し成果を上げて下さい。